



「SWALLOW 闘争委員会情報」

申 8 号 緊 急 申 し 入 れ の 回 答 を 受 け る !
交 渉 を 経 て 、 第 三 者 機 関 の 活 用 を 会 社 に 通 告 ! !

○2025年4月10日団体交渉にて申8号緊急申し入れ回答を受ける

1. 「現基本給額に対し、4,000円を加えた額を新基本給額とする」とした未曾有の物価上昇に遠く及ばない回答は、組合員と家族、子供たちの日常生活に大きな影響と不安を与え将来を大きく左右することから回答を再考し、現行賃金改定額に11,000円を増額した額の改訂を実施すること。

○会社回答

既に貴側より申6号により申し入れを受け、数度の交渉を経て3月21日開催の団体交渉にて会社より回答とその趣旨を示していることから、その考えはない。

○ベア実施額「4,000円」の根拠と考え方

ベースアップの性質はあくまで物価上昇に対する生活維持向上のためのもの。業績連動や還元といった考えでなく、先行投資の側面が強い。経営状況、社会情勢、物価上昇の三要素を総合的に勘案し出た答えである。先行投資であることから無限に底上げというのは現下の企業体力では難しく、今後の経営の見通しから限界値で判断した金額が4,000円であった。4,000円での実施で4,700万円/年の持ち出し増となる。

○非常に抽象的で不誠実な団体交渉であるに対立

組合：申6号含め、我々としてはスト権を確立している状況。労組としての考え方がある。今日の議論を含め、納得感というものは薄い。ここまでの議論をしっかりと持ち帰って組合員とも議論をしているが、職場の受け止めとしては厳しい声が返ってくる。先ほどから労使での団体交渉の在り方についても発言をしたが、今回の交渉においても「何をもって限界なのか」、それに対する会社見解もそうだが、団体交渉の議論自体が抽象的である。非常に不誠実な交渉であったと考える。これ以上、労使交渉での進展が難しいのであれば第三者機関の活用も考えていかななくてはならない。

会社：それはあまりにも不本意すぎる。我々はあくまで組織対組織の窓口として議論している。毎回同じ委員が参加していない中、議論している温度感というものを理解せずに言っているに過ぎない。我々も揚げ足を取るわけでないが信義誠実ということは、双方に言えることである。具体的な議論に至らず、質問が抽象的だから回答も抽象的になる。何が不誠実だったのか伺いたい。我々の認識は申し入れを受け、団体交渉を開催し議論を行えば不誠実という認識ではない。貴側の対応にも不誠実なところはあろう。第三者機関の活用となれば、労使外での取り扱いになるので会社としても整然と対応していく。貴側からの賃上げに関する妥結判断は期日までに回答をお願いしたい。貴側組合員に対するベースアップの実施に関しても、法的に判断を仰ぎつつ実施を決めていきたいと考える。再申し入れをいただいたことを考えると今週末でなく、週明けまでに回答いただきたい。

- 「第1回目の趣旨説明の際に1万円前後という発言をしていたのにも関わらず、言っていないという姿勢」
- 「エルダー社員のベアについても実施する方向で考えている旨の発言をしていたのにも関わらず、議論した結果、今回は実施しないという判断になった。やるとは言っていないという姿勢」
- 「4000円の根拠や限界性など、試算した数値などの資料を求めたにも関わらず提示しない姿勢」
- 「これまでの団体交渉においても『経営幹部でないからわからない』『私たちは伝書鳩』などの発言、また議論内容を回答書に全く反映しない姿勢」

交渉の最後に第三者機関を活用することを会社に通告！